

年間第21主日

第一朗読 イザヤ 22・19-23

第二朗読 ローマ 11・33-36

福音朗読 マタイ 16・13-20

2020. 8. 23

カトリック高円寺教会 9 : 30 ミサ
ビジュ・キシヤケール神父 (神言会)

皆さん、初めまして。初めてこの高円寺教会でミサを捧げる恵みをいただきましてありがとうございます。吉池神父様、ありがとうございます。吉祥寺教会から月に1回高円寺教会にミサのお手伝いに来ることになってはいますが、私は吉祥寺教会のビジュ神父と言います。今年の4月から吉祥寺教会に赴任してきました。インド出身です。ちょうど日本に来て明日25年になります。25年を迎える日に東京の高円寺教会でミサを捧げる恵みをいただきまして、本当に嬉しいです。

それでは、今日の福音のことを少し分かち合いたいと思います。

今日の福音の中で見られるペトロと弟子たちの姿を見るとイエス様への信仰告白を現すものと考えられます。

イエス様は、自分のことを人々は何者だと思われているのかと尋ねた時、「洗礼者ヨハネだ」とか「エリヤだ」と言っていると答える弟子たちの話を聞いて、弟子たちこそ自分のことをどう思っているのかとイエス様が問いたです。

イエス様と一緒にいたペトロと弟子たちにとって、イエス様からこのような質問が出るなんて、考えたこともなかったことが彼らの答えから読み取れます。そこで、ペトロが慌てて「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えるのです。ペトロの答えは、弟子たちを代表した答えとなり、突然の質問に対して、心に浮かんだ答えとして心からそう思っていたということでしょう。ペトロのこの答えは彼のイエス様への信仰告白でした。イエス様はペトロに「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」と言ってペトロを誉め、「わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつながれる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる」と言って彼に責任の仕事を任せ、すべての人を神様へ導くための恵みを与えるのです。教皇様に与えられている恵みです。

さて、日々の生活の中で、私たちは神様とのつながりを試されるような場面に

遭遇することがあるのではないのでしょうか。まさに、新型コロナウイルス感染の真ただ中にいる私たちが自分の信仰を試されているような気がします。特に、ミサに参加したくても、様々な制限で自粛しなければならない方々、また、しばらくミサを自粛しているため、教会と距離を置くようになった方々、神様の存在を疑うようになった方々もいることでしょう。

このような中でも、何とかして、お家でも祈りしてこの苦しい現実を乗り越えようとしている方々、孤独でいる方々へ慰めの声を運んでくださる方々もいます。こういう状況の中で、イエス様は自分のことをどう思っているかと問われたらどのように答えられるのでしょうか。教会に来て、ミサに参加したり教会の活動に積極的に関わったりしますが、自分の今までの信仰生活において、イエス様に対してどう表現できるでしょうか。

教会の活動、共同体のための奉仕などをしていても、イエス様のことをどう思っているかと言えないなら、自分の信仰がまだ薄いと言えるでしょう。それでも、きっとイエス様は、私たちに必要な恵みが下さることでしょう。

自分にとって、イエス様は何者かと考え、その答えをしっかりと告白できるように日々私たちを見捨てることがないイエス様とのつながりを深め、何事にも神様の導きを感じるよう心がけましょう。